

項目		本省委託	SCOPE	CREST	ERATO	FP7	GENI/FIND	
制度の体系的構造	どこの国の制度か (所管省庁・機関)	日本 (総務省)	日本 (総務省)	日本 (JST(文部科学省))	日本 (JST(文部科学省))	EU (欧州委員会)	米国 (NSF(全米科学財団))	
	開始時期	平成15年度～	平成14年度～	平成7年度～	昭和56年度～	平成19年度～	平成17年頃～	
	評価者	外部専門家	外部専門家	外部専門家	外部専門家	外部専門家	・3万ドルまでの小規模提案は、GPO(GENI Project Office) ※内部で評価 ・大規模提案は、エキスパートチームの評価も受け決定	
	研究フェーズなど	制度の性格	課題指定型	競争的資金	競争的資金	競争的資金に近い	競争的資金に近い	課題指定型に近い
		分野	UNS II 領域	UNS II 領域	JST戦略目標に基づく領域	JST戦略目標に基づく領域	・ユビキタスで信頼出来るネットワークおよびサービスインフラ構築に向けた技術が中心	・包括的なネットワークアーキテクチャ設計研究
	予算規模	制度全体	62億円/年 (平成21年度予算)	22億円/年 (平成21年度予算)	300億円程度/年	50億円程度/年	約1560億円/年 (約13億ユーロ/年)	GENI: 1200万ドル/3年 FIND: 2000万ドル/2年 予算要求段階: 3億6700万ドル(5年間)。 2008/8: NFSより1200万ドルの助成金支出。 今後、1億2000万ドル(3年)の供与が確定。
1プロジェクト		5億円程度/年・課題	1000万円程度/年・課題	3000万円～1億円程度/年・各チーム	上限15億円程度/課題	研究資金の50%助成(中小企業には75%まで)	・個人/小グループ 12万ドル/年・人 (3年以内) ・大グループ 50万ドル/年・人 (4年以内)	
公募・採択	公募	・総務省で課題を指定して、委託先を公募	・特定の領域に関する課題を含めて委託先を公募	・研究領域ごとに研究提案を公募	・研究開発経験者による「研究統括候補者及び研究開発課題」の他薦	・応募しやすいようにテーマを具体化 ・採択と応募の比率が1:4になるようにテーマ設定	・テーマは規模や内容を提示	
	採択評価	評価内容	・採択評価を行い、委託先を選定 ・評価指標は非公開	・採択評価を行い、委託先を選定 ・評価指標をHPにて公開	・書類審査、面接などを行い、委託先を選定 ・選考基準をHPにて公開	・書類審査、面接などを行い、委託先を選定 ・審査指標をHPにて公開	・評価グループの徹底的な集中討議により委託先を選定 ・評価の指標を公開 ・評価の指標は、「1.科学的・技術的な卓越性」、「2.設備・マネジメントの質と効率性」、「3.潜在的なインパクト」	・評価グループでの議論により、委託先を選定 ・評価指標をHPにて公開
		実施者傾向	・主に民間企業が多い	・主に大学が多い	・産学官問わず	・産学官問わず	学術研究機関40% 産業界35% 非営利団体14% その他11%	・エキスパートチームは各自応募(産学、国籍問わず)。エキスパートDBには約250名が登録
	知財管理	・日本版バイドールを適用	・日本版バイドールを適用	・日本版バイドールを適用	・日本版バイドールを適用	・日本版バイドールを適用	・FP7は知財を主張しない ・プロジェクト内の合意に任せる。	・知財は公表することを推奨 ・主張する場合でも、GENIでの利用に制限はない
研究実施	定期レビュー	・1年毎に継続(中間)評価を行う	・1年毎に継続(中間)評価を行う	・1年毎にレビューを行う ・研究開始後3年程度を目安に中間評価を行う	・1年毎にレビューを行う ・研究開始後3年程度を目安に中間評価を行う	・3ヶ月、1年毎にレビューを行う ・一部、テーマ修正や参加企業の入れ替えなどを実施	・年3回のカンファレンスにて進捗を公表 ・研究途中で方向性が変わることを許容	
	予算管理	・1年毎に継続(中間)評価を行い、課題の継続に問題がなければ継続契約を行う	・1年毎に継続(中間)評価を行い、課題の継続に問題がなければ継続契約を行う	・1年毎にレビューを行い、次年度予算に反映	・1年毎にレビューを行い、次年度予算に反映	・1年毎にレビューを行い、翌年の予算を支給	・1年毎にレビューを行い、翌年の予算を支給	
	プロジェクト構成	・単独研究も共同研究もあり得る。	・単独研究も共同研究もあり得る。	・研究代表者が数名～20名程度の研究者からなるチームを幾つか編成する	・研究総括の元に数名～十数名の研究者による2～4のグループを形成	・1プロジェクトは7～20団体で構成 ・大規模プロジェクトでは5～7のサブプロジェクト ・研究はほぼリモートで行われている ・体制構築の仕組みはFP7としては有していない	・BBNIに雇用されたシステムエンジニアが常に進捗を見守る ・FINDでは、カンファレンス時に情報共有を行い、次ステップのチームビルディングにつなげている	
成果活用	成果評価	・研究開発終了翌年度に終了評価を行う。また、成果の波及効果について追跡評価を行う。 (特許、商用化、標準化などが指標)	・研究開発終了翌年度に終了評価を行う。また、成果の波及効果について追跡評価を行う。 (特許、商用化、標準化などが指標)	・研究開発終了後に事後評価、追跡評価を行う。 (特許、商用化などが指標)	・研究開発終了後に事後評価、追跡評価を行う。 (特許、商用化などが指標)	・45日以内に成果物提出 ・外部コンサルタントによるインパクト分析がメイン ・特許は指標。商用化、標準化は指標外	・研究開発終了後に事後評価、追跡評価を行う。 (特許、商用化などが指標)	
	公表	・原則、HP、冊子等で公表(非公開資料あり)	・原則、HP、冊子等で公表(非公開資料あり)	・評価結果、研究成果は積極的に公開	・評価結果、研究成果は積極的に公開	・全て、HP、冊子等で公表 ・カンファレンスを開催	・GPOの広報が、全て、HPやドキュメントで公表 ・カンファレンスを開催	
	標準化、商用化など	・特にない	・特にない	・特にない	・特にない	・特にない	・特にない	

※ GENIの全体的なプロジェクト管理を担当し、作業分担、スケジュール管理、予算管理などを行う。公募で決定。BBN Techが受託。